

登録コード	HM137200	開講年度	2026					
授業題目	健康教育学特論					担当教員	友川 幸 他	
英文授業名	Health Educaiton seminar					副担当		
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・ 不定期		対象学生	1年
講義室				授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)		
2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加								
【研究科共通_2024年度以前加付対象】専門分野以外の課題を見渡し自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力					本授業では、国内外の健康問題及び健康教育に関する基礎的な知識を習得するとともに、健康問題の背景にある事象や求められている健康教育の在り方を理解していきます。授業での学びを通して、自分の専門分野以外の課題を見渡し自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力を習得する。			
【研究科共通_2024年度以前加付対象】高度専門職業人・研究者として、科学・技術を発展させるための健全な倫理観					本授業により、国内外の健康問題及びその対策としての健康教育について学ぶことを通して、高度専門職業人・研究者として、科学・技術を発展させるための健全な倫理観を習得する。			
【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					本授業により、国内外の健康問題や及びその対策としての健康教育に関する研究について学ぶことを通して、医学または保健学の研究に対する世界 標準の専門分野における深い知識・卓越した技能を習得していく。			
【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力					本授業により、国内外の健康問題やその対策としての健康教育について学ぶことを通して、基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力を習得する。			
【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力					本授業により、国内外の健康問題やその対策としての健康教育について学ぶことを通して、医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力を習得する。			
(2)詳細 /Detailed information	健康の定義、国内外の健康問題の発生の背景と対策の現状、またその対策の一方策としての国内外の健康教育（学校保健を含む）の歴史的変遷と最新の動向について概説する。さらに健康教育に関する理論、ライフステージに応じた適切な健康教育の方策と、地域、学校、医療現場における健康教育活動の実施の意義と必要性を概説する。							
(3)授業の概要 /Overview of course	健康の定義、国内外の健康問題の発生の背景と対策の現状について概説する。また、健康教育の重要性及び、健康教育に関連する理論について解説する。さらに、グループでの議論を通して、健康に関する諸問題の対策としての健康教育について、自分なりの考えを持ち、必要とされる健康教育の在り方について議論する機会を提供する。また、国内や海外で実施されている実際の健康教育活動を学ぶことを通して、ライフステージに応じた適切な健康教育の方策と、教育、学校や医療現場における健康教育活動の重要性を理解し、地域、学校、医療現場における適切な健康教育活動の実施の必要性を概説する。							
(4)授業計画 /Course plan	第1回：ガイダンス（講義予定と授業評価について） 第2回：健康とは何か：健康の定義、健康指標、健康観、健康寿命、教育と健康 第3回：国際社会における健康課題及びその対策としての健康教育の変遷と最新の動向 第4回：日本における健康課題及びその対策としての健康教育の変遷と最新の動向 第5回：国際支援としての学校保健・健康教育の変遷と最新の動向 第6回：健康教育に関する理論 第7回：ライフステージに応じた健康教育 第8回：学校における健康教育の意義とその役割 第9回：地域における健康教育の意義とその役割 第10回：食生活、運動と健康教育 第11回：交通安全、ケガの防止、生命（いのち）の安全、防災と健康教育 第12回：喫煙・飲酒・薬物乱用と健康教育 第13回：メンタルヘルスと健康教育 第14回：感染症対策と健康教育 第15回：環境教育と健康教育 第16回：健康教育に関するプレゼンテーションと授業のまとめ、授業アンケート							
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	a)成績評価の方法 レポート課題(50点)及びプレゼンテーション（50点） 合計が60点未満は不可とする。 b)成績評価の基準 プレゼンテーションの場合： ()対象の課題が十分に理解されている，()問題の設定が適切である，()対象の興味や関心をひく内容になっている()発表時間が適切に確保されている，()適切な発表が行われている。()から()の5項目を満たしていれば「卓越している」，4項目までできていれば，「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」と評価する。 ・レポートの場合： ()問題の設定が適切である。()その問題の背景を説明できている()提示された問題にどのような課題があるのかを指摘できている。()提示された問題の課題に対しての既存の学説が提示する解決法が適切に把握できている ()自分の見解を提示できており，かつ，誤字脱字がなく，引用文献やデータの出所が明確である。()から()の5項目を満たしていれば「卓越している」，4項目までできていれば，「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」と評価する。							

(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	プレゼンテーションの資料に関しては、インターネットの情報のコピーや出所の不明瞭な情報を使用しないこと。履修にあたっては、公衆衛生学を履修済みであることが望ましい。 eALPS上に次週の授業内容を掲載するので、ダウンロードでして予習しておくこと。自宅学習では、専門書、新聞、ニュース、インターネットなどを用いて、授業で扱った内容や健康や安全、環境に関する情報や時事問題について学習すること。授業内で十分に理解できなかった事項は、授業毎回の授業時に、予習または復習しておくべきことを指定する。 テキスト、教材及び参考書は特に指定しないが、授業で扱うテーマに関して、事前に資料（英文）を熟読し各テーマに関するディスカッションを行うための自己学習をしておく必要がある。この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	授業に関する質問は、基本的に授業内で確認するようにし、授業内で解決できなかった質問については、sachitjp@shinshu-u.ac.jpにメールで質問すること。
(8)授業の形式/Course format	講義及び演習